



平成28年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【光が丘地区】

平成29年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1 光が丘地区自治会連合会	光が丘地区自治会加入促進事業	光が丘地区の自治会加入率は、69.71%(平成27年4月1日現在)であり、年々加入率の低下が進んでいる状況にある。加入率の低下は、新規の加入が進まないことも原因であるが、高齢化が進むに伴って、脱会者の増加も大きな要因となっている。	自治会未加入者へ地域のイベント案内チラシを配布し、イベント会場において抽選コーナーを設けることで、多くの自治会未加入者を呼び込み、自治会加入促進を進める。 地区連HPを構築し、自治会連合会や単位の自治会活動を広く情報発信し、その活動に対する理解を深めて貰い、退会者の防止と加入者の増加を目指す。 自治会長や班長に対する研修会を開催することで、役員自らが自治会活動に対する理解を深め、地域をあげて加入促進活動に取り組む土台をつくる。	地区連ホームページの構築 担当者研修会の開催 自治会退会者防止に向けた班長教育(自治会長研修会および中間連合を単位として研修会を開催) 地域イベント案内チラシの作成(未加入者向け) 3000部 地域イベント時に加入促進ブースの設置 景品代は、地区自治会連合会にて負担(15000円) 自治会加入促進リーフレットの作成 12000部	7月8日	405,000	390,000	390,000
2 光が丘地区自転車事故対策委員会	光が丘地区自転車事故対策委員会	光が丘地区は、自転車事故の発生件数が多く、地域の大きな課題となっている。今年度の1月に様々な団体が参画して、毎月1回「自転車事故対策会議」を開催しており、その中で当地区における事故の発生状況を共有し、街頭啓発活動を開始するところである。自転車事故発生件数を減少させるために、交通マナーの向上やルールの周知徹底を図ることが求められている。	スクエアードストレート事業の実施により、恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐとともに、参加者の交通マナーの向上とルールの周知徹底を図る。また、街頭啓発活動を継続して実施することで、自転車事故がなく安全で安心して暮らせるまちづくりを目指す。	スクエアードストレート事業の実施(10月9日:青葉小学校、10月23日:陽光台小学校) 毎月20日に地区内(4、5会場)において、街頭啓発活動を実施 啓発チラシの配布と交通安全ハンドPOPによる交通安全意識の啓蒙	7月13日	650,000	650,000	650,000
3 一般社団法人光が丘ふれあいセンター運営委員会	地域ふれあいネットワーク構築事業	(1)当地区では様々な地域活動が展開されているが、その参加者の多くに固定化がみられる。また年代別では50代以下の参加者が非常に少ない。地域活動を通して共助の精神が根付くことが期待される中において、メンバーの偏りや世代の隔たりがあるのは望ましくない。 (2)当センター周辺に新築の戸建てが多く建設され、若い世帯が徐々に入居している。彼らの住まいに最も近い公共施設として、転居家族と地域住民とが広くふれあえる交流の機会が必要である。 (3)当地区は高齢者率が特に高いことから、高齢者の介護予防や健康維持のために、グループ所属の有無に関わらず参加できる親しみやすい事業を行い、気軽に立ち寄れる居場所作りを目指したい。	(1)仕事や子育てに忙しい世代を含めた、より多様な人々の交流。 (2)転居者と住民との信頼関係の構築。転居者を温かく迎え入れることで、共助の精神を共有し、地域コミュニティの一端を担っていただくこと。 (3)高齢者のための気軽な居場所作りと健康維持に対する情報提供。	・「夏休みお楽しみ工作教室」は、光が丘地区の親子を対象とする交流事業。4つの小学校に通う児童がものづくりをともに楽しみ、その保護者自身も工作しながら、また交流するもの。 ・「ふれあいクリスマス会」は、光が丘地区の比較的最近の転入者を主対象とする交流事業。 ・「元気にうたいませんか?」と「お医者さんに聞いてみよう」は、高齢者のための気軽な居場所作りと健康維持のための事業。「お医者さんに聞いてみよう」は普段はなかなか聞けない医師による高齢者のための講話。 ・「ママカフェ」は保健師の協力を得て行う、若年のママを対象とした気軽なおしゃべり会。	7月13日	140,000	133,000	133,000
4 こども未来ワールドin光が丘実行委員会	こども未来ワールドin光が丘	光が丘地区では、担い手不足が深刻なことから、中高生が地域活動へ参加できる仕組みの構築を進めており、現在も、年間延べ200名以上の学生がボランティアとして地域のイベント等へ協力をしてくれている。担い手の高齢化も進んでいる中、次の世代にどのように地域の伝統等を引き継いで行くかが課題となっており、学生ボランティア等の若者世代に、自ら考え実行する機会の提供が求められている。	子どもたちに事業の企画運営する機会を提供し、大人たちがそのサポートに徹することとし、子どもたちが中心となった実行委員会を組織する。子どもたちは、実行委員となることで自立性・協調性・考える力を養い、事業実施による達成感を味わうことで大きく成長することと考える。 高齢化が進み、地域活動の担い手が不足する中、子どもたちを地域で育て、将来的には、地域の担い手となるよう、子どもたちの成長を目的としている。	若者世代を中心に実行委員組織を立ち上げ、企画運営に携わってもらおう小中学生の実行委員を募集する。集まった子ども達で、企画し運営を行う地域イベントを11月23日(祝)に実施する。 ・スポーツ体験コーナー(野球、サッカー、アメフト、ラグビー) ・子どもコーナー(お化け屋敷、宝さがし、スタンプラリー、段ボール迷路、スライムづくり、フェイスペイント、ペットボトルボウリング 他)	10月12日	865,000	850,000	850,000

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
5 光が丘地区社会福祉協議会 福祉の里づくり推進委員会	若者世代の地域活動への参加促進事業	地域内にある中、高、大学に通学する若者及び地域に在住する若者世代が、地域の福祉活動について、一定の役割をもって継続的に参加できる仕組みを構築し、地域のボランティア団体、個人ボランティアと協働し、障がい者や高齢者への手助けの活動を体験して、若者世代が地域で果たすことのできる役割を理解する必要がある。	地区は65歳以上の高齢者の割合が31.0%(平成28年4月)と、市内でも1,2を争う高齢者率となっている。その中であっても、毎年開催している「光が丘地区ふるさとまつり」に代表されるように、地域住民のつながりは極めて強く、「福祉コミュニティ形成モデル事業」は市内のトップを切って実施された経緯もある。 しかしながら、このコミュニティの持つ強みも、次の世代に引き継がれていかなければ、益々進行していく高齢地域の将来が危ぶまれる。そこで、継続的に若者世代が地域の活動に参加することを促進しようというのがこの事業の目的である。	多数の地域イベントに若者世代が参加しやすいように、活動場所を設定し、参加することで自然に地域社会が抱える課題に気づき、自ら参加の仕方を考える機会を提供する。加えて、まちの将来を担う中学生を構成委員として、地域の将来を考える場として「こどもまちづくり会議」を設置し、独自に企画する活動事業を検討する。 福祉の里づくり委員会としては、地区内の様々な団体からの要望等を取りまとめ、学校との調整を行うとともに、ボランティア参加者へは「ボランティア手帳」を配布し、若者世代のボランティア養成を行う。 ボランティア参加者(中学卒業時)へは、記念品と感謝状を贈呈する。	10月19日	435,000	435,000	435,000
6 光が丘地区人材ネット委員会	知識や経験を持った人の地域活動への参加促進事業	光が丘地区まちづくり会議の第1専門部会を母体とする当委員会はこれからのまちづくりに活躍願える人材の発掘と実践活動を進めることをテーマとして検討を進めてきた。既に地域活性化事業において人材募集と人材活用実績の積み重ね及び結果の広報を行ってきたところであるが、平成28年度ではさらにこの仕組みの周知と実績づくりの事業を行うものである。	昨年度までの人材活用実績をまとめて、地域社会への浸透をはかる広報活動と需要調査を同時に行う。併せて人材活用の実績作りを行うことが今年度事業の目的である。	人材ネットの仕組みと人材活用実績を紹介するチラシ・ポスターを制作し広報を行うと同時に、地区内の団体、施設等のニーズを把握し、登録していただいている人材の活躍の幅を広げ、人材ネットの活性化につなげるための補足調査を実施する。	10月19日	70,000	70,000	70,000
7 高齢者コミュニティについて考える会	高齢者コミュニティ活性化事業	当地区では高齢化が市内1,2位を争う地区であり、その中で様々な活動が行われていますが、まだまだ高齢者の方が外へ出てコミュニケーションを図られる活動は少ないのが現状です。 このため身近な場所で簡単なルールで出来るグラウンドゴルフの推進が望まれています。 高齢者の筋力向上を図るため、地域包括ケア推進課及び光が丘高齢者支援センターと共に健康寿命の促進を図る活動が望まれている。	高齢者の外出の機会を増やす。 高齢者の孤独や不安の解消。 健康寿命を促進して民生委員児童委員などの地域の負担を軽減する。	グラウンドゴルフが定期的開催されている会場へ参加を呼びかける。 毎週火曜日9:30～12:00陽光台ふれあい広場(陽光台連合自治会) 毎週日曜日13:00～並木小校庭(ひかり自治会) 老人クラブ連合会と協力し、年度内に独自に開催 グラウンドゴルフPR活動回覧(カラー版1000枚) グラウンドゴルフ用具購入 いきいき百歳体操のPR いきいき百歳体操実演会×2回 いきいき百歳体操PRチラシを作成(カラー版1000枚)	11月29日	185,000	160,000	160,000
8 相模原市パークゴルフ協会	パークゴルフによる高齢者いきいき促進事業	高齢化率の高い光が丘地区では、今後医療費の増加が懸念されている。また、核家族化の進展等により人間関係の希薄化が進みコミュニケーション不足も課題となっている。さらに、災害時等に備え、平常時から地域住民の交流を促進し、地域住民の連携強化が求められている。	比較的、高齢者でも入門しやすいスポーツを通じて気軽に地域住民を一堂に集め、地域住民同士が会話の機会を設けることにより、平日頃から顔が見えるコミュニティの輪を広げ、非常時にもお互いの情報が共有できる一助にする。あわせて、スポーツを継続的に行うことで、体力維持と健康増進につなげ、元気な高齢者のまちを創造する。	年齢や性別を問わずに入門しやすいパークゴルフの体験促進 1)各種媒体を活用した参加者募集活動 2)体験教室の開催 3)初心者の方を中心としたマナー、ルールの講習 4)地域の公共的な活動団体(自治会、公民館、学校等)との連携活動を通じたコミュニティの拡大	12月2日	242,000	121,000	121,000
						2,992,000	2,809,000	2,809,000